



昭和の初めからあるスタジオ用の写真機

第84回 実は隣のスゴイ人

曾於市内のスゴイ人にスゴイ人を紹介してもらうこのコーナー。
前回のスゴイ人、丸田瑞穂さんにご紹介いただいたこの方は「岩川の歴史について詳しいスゴイ人」とのこと。

玩古道人

がんこどうじん。玩古道人は島津久光が使用していた雅号の一つ。歴史を学ぶ人を意味する。澤俊文さんの好きな言葉。

【今回のスゴイ人】
さわ写真館
大隅あつみ会 会長
さわとしふみ
澤俊文さん

「若い人に岩川のまちのことや、戦時中の話をしたい。伝えたいといけないうです。」

その戦いを破り大功績を挙げました。その後、大津は岩川を末吉郷から分郷独立することを西郷隆盛に要請。戦いで大きな功績から要請は受け入れられ明治2年(1869)に岩川郷が誕生しました。

先祖が戦争で敵同士になった過去を縁に、澤さんら「ふるさと歴史探検隊」は旧温海町を訪問し交流が始まりました。

「岩川私領五番隊がどのように関川で戦ったのか、どうしても行ってみたい。温海町の方はあたたかく、案内してくれました」

現在83歳の澤さんは幼少期に第二次世界大戦を経験。昭和20年(1945)8月6日、5歳の時には自宅でアメリカ軍戦闘機の機銃掃射を受けた経験もあります。その体験をもとに大隅中と松山中で講話を行ってきました。

「若い人に岩川のまちのことや、戦時中の話をしたい。伝えたいといけないうです。」

「叔父は歴史や文化を研究する鹿児島史談会に入っていました。よく勉強会に連れていかれ、そこから歴史に触れるようになりました」

高校卒業後は実家の写真館を手伝った。め岩川に戻ることに。

「岩川に帰ってきてからも歴史好きの人に誘われ、大隅町内にある多くの文化財を見に行っていました」

澤さんは『何でか』を追求しないと気が済まない性格。岩川のことを知ってもらいたいという思いもあり、文献を引っ張り出してこれなら人に話しても恥ずかしくないというほど調べ上げたそう。

岩川ができたのは慶応4年(1868)に始まった戊辰の役がきっかけ。当時の岩川は末吉郷の一部で、島津家の重臣の伊勢家が治めていました。伊勢家の家臣団は大津十七を隊長とした岩川私領五番隊を編成し参戦しました。山形県鶴岡市温海町の関川で庄内軍と戦い、激戦の末、関川



平成10年 温海町で戊辰の役130周年の慰霊祭



平成11年 初めて温海町から鹿児島へ訪問



平成11年 大隅町と温海町が近所盟約を締結



平成8年 初めて温海町を訪問

曾於市

“先人達の偉業を称え歴史を掘り起こして学び糧として将来の展望を開く” 澤俊文

曾於市の友好都市 山形県 鶴岡市



平成30年『戊辰の役150年の記念碑』設立



平成13年 大隅弥五郎太鼓が温海町を訪問



平成19年 西南戦争終結130周年記念の官軍慰霊祭



平成20年 温海町で『友好の記念碑』除幕式